

厚生労働大臣

小宮山 洋子 様

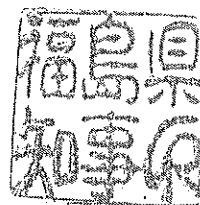
要 望 書

福島県知事

佐藤 雄平

福島県いわき市長

渡辺 敬夫



## 地域医療の充実について

いわき医療圏においては、東日本大震災以前から慢性的な医師不足の状況にあり、平成 22 年の国の統計資料によれば、本医療圏の人口 10 万人あたりの医療施設従事医師数は、160.4 人であり、全国平均 219.0 人、県平均 182.6 人を大きく下回り、福島県内の 7 つの医療圏では平成 20 年から会津医療圏に抜かれ 4 番目であります。

これに加え、東北地方太平洋沖地震と東京電力(株)福島第一原子力発電所事故に起因する原子力災害の影響により、本市から医師や医療従事者が流出するとともに、新たな医師の招へいや医療従事者の確保が困難となり、いわき市における医師をはじめとする医療従事者の不足は深刻な状況となっております。

更に、現在、双葉郡から約 23,000 人の方がいわき市に避難しており、仮設住宅周辺の医療機関においては、双葉郡の外来患者数の増加により待ち時間が長くなるなどの影響が出ているところもあり、いわき市民への影響や医師の負担が過重になっていることが懸念されるなど、これらも踏まえた医療提供体制の再構築が急務となっております。

このような状況の中、今後のいわき医療圏の地域医療の充実・強化に向け、災害にも強い医療の再構築を早急に図る必要があることから、地域医療再生基金を積み増すとともに、特に、浜通り地方における高度・急性期の医療を担い、三次救急医療に対応したいわき市新病院の整備等について特段の御支援をお願いいたします。

また、いわき市においては、県と連携して、医師招へいの取組を進めているところではありますが、国としても、可能な限り早期に被災地域への効果的な医師招へい・医療従事者確保のための対策を実施してくださるよう、強く要望いたします。

